

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
	69.8	68.0	65.2	59.0	56
	(1.11)	(1.06)	(1.06)	(1.09)	(1.02)
R7 正答率の全国比		1.02		1.02	0.98

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<p><b>【国語】</b> 県平均・全国平均よりも高い正答率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題形式ごとに見ると、選択式や記述式問題の正答率は、県及び全国平均より高い。</li> <li>・内容別に見ると、「話すこと・聞くこと」の正答率は県及び全国平均より高いが、「読むこと」は県平均より高く全国平均より低い。文章問題において、段落相互の関係を捉えて文章の構成を考えること、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。</li> </ul> <p><b>【算数】</b> 県平均・全国平均よりも高い正答率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題形式ごとに見ると、短答式・記述式問題の正答率は、県及び全国平均より高い。</li> <li>・領域別に見ると、「図形」「測定」「データの活用」の正答率は、県及び全国平均より高い。しかし、「数と計算」「変化と関係」の正答率は、県平均より高いが全国平均よりは低い。県及び全国平均を下回った問題は、分数を用いた数直線の問題と割合の問題である。</li> </ul> <p><b>【理科】</b> 県平均より高く、全国平均より低い正答率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題形式ごとに見ると、記述式問題の正答率は県及び全国平均より高く、短答式の正答率は県及び全国平均よりも低い。観点別に見た結果でも、「思考・判断・表現」の正答率は県及び全国平均より高く、「知識・技能」の正答率が県及び全国平均より低い。</li> <li>・領域別に見ると、「エネルギー」「粒子」の正答率は県及び全国平均より高い。しかし、「生命」の正答率は県及び全国平均より低い。</li> </ul> <p><b>【意識調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている」児童の割合が、県及び全国平均よりも高い。</li> <li>・「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的に回答した児童が8割以上おり、「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童が9割以上いる。</li> <li>・タブレット使用に関する調査では、「ほぼ毎日使っている」という回答は県及び全国の平均より低い。しかし、「ICT機器で文章を書くことができる」「情報を整理することができる」「自分のペースで進めることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と肯定的に回答した児童が、県及び全国平均より高い。</li> <li>・国語を「得意」「好き」と肯定的に回答した児童の割合は平均を超えているが、算数はおおよそ平均的で、理科では平均より低い。</li> </ul>
--

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「授業づくりステップ123」を用いて、「書く活動」「話し合う活動」を重点的に取り組み、定期的に振り返ることで、授業改善について意識の継続を図る。
- ・国語と算数では、1単元で1回以上記述する学習に取り組む。その内容は、条件を与えて実施し、2ヶ月に1回は職員の振り返りを行う。児童に与える書くときの条件として字数・立場・内容・段落・言葉と式などを提示する。
- ・9月から1月までの期間に、教職員は授業で「学びの地図」「振り返りシート」を取り入れる。
- ・教科等の学習に読書活動を取り入れた実践を行う。
- ・必要に応じて可能な限り、TT授業や少人数指導ができるような支援体制を整える。
- ・校内研究では、「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識した授業づくりを行い、授業研究会等を開き、授業改善に取り組む。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・毎週月曜日と金曜日の朝の時間(8:15~8:25)の10分間を「西っ子タイム」として設定する。低中高に分かれて、担当学年で身につけさせたい内容を話し合い、月曜日はタブレットや読書、金曜日は国語と算数の基礎・基本に取り組んでいく。
- ・全学年で「西っ子カード」を活用し、基本的な生活習慣づくりに継続して取り組んでいく。その中の「生活習慣」に関する項目は、学年の実態に合わせて目標や振り返る内容は変更する。「学習」に関する項目では、音読をすることを徹底させたり、毎日日記に取り組みせたりして、言葉の力の育成につなげていく。
- ・筆記用具の準備や使い方(鉛筆を削っておく・筆算はものさしを使うなど)、休み時間の使い方(かつお)などを徹底することで、45分時間いっぱい学ぶことができるようにする。
- ・児童も教師もICTの良さを実感しているので、ICTをより効果的に用いる授業を研究・実践していく。校内研究や研修の時間を設けて共有することで、全職員で効果的な活用方法を追求していく。